



# 社会福祉協議会「椎名だより」 平成29年度 第2号 (通算17号)



発行者：千葉市社会福祉協議会椎名地区  
編集者：千葉市社会福祉協議会椎名地区 広報委員会  
代表 岡本 博幸 〒266-0021 千葉市緑区刈田子町 28

千葉市社会福祉協議会  
マスコットキャラクター  
ハーティちゃん

## 椎名小学校三年生・総合学習 「みんな なかよし 椎名の町」 福祉講座(ガイドヘルプ) 授業参観して (本田・岡本記)

### 第1回 12月12日(火) 体育館

・講師 永原美弥子・藤崎眞美子先生  
・スタッフ 渡辺友資枝・小出佳子様  
・ねらい

- ①ガイドヘルプ(移動介護)を体験する
- ②視覚障害者が外出先でどんなことに困るか
- ③いろいろな手伝い方があることに気付く
- ④便利な機器の紹介

#### ・授業の流れ

- 1 ガイドヘルプ紹介
  - ①声のかけ方(何かお手伝いすることはありますか)
  - ②立ち位置(右側)・腕の組み方(右腕の上を持つ)
  - ③歩き方(一歩先を歩く)
  - ④狭い道(狭いので一列になります。健常者は背中に手を回します。終わります)
  - ⑤段差(段差があります)
  - ⑥椅子への案内(横から背もたれに手を添えます。椅子です。手を下から支えて座ってもらいます)
  - ⑦終わり方(終わります)
  - ⑧終わりがとうございましたの挨拶
- 2 ガイドヘルプ体験
  - スタッフの方の説明をもとに一人一人が体験をする。体験して移動介護方法を身に着ける。



【ガイドヘルプ体験】

- 3 便利な機器の紹介
  - ①点字ブロックと音サインの紹介
  - ②電子機器やアプリの実演
  - ③東日本大震災の話、最近の事故やブロックの設置の様子、震災時の視覚障害者が困ったかを聞く。
- 4 当事者との質疑応答
  - ①信号をどのように感じますか(周りの様子、人が歩き出した。車が走っていない、エンジン音の気配から)。信号は怖いです。いつもドキドキしています。一緒に渡ってくれたらうれしいです。
  - ②道を間違えたら(様々な音の様子から判断、例・パチンコの音、パン屋の匂い、等々)

★感想 体験が理解を深め、障害者に寄りそって考

### 第2回 12月13日(水) 体育館

・講師 3年担任天関・西郡先生  
・ねらい

- ①ガイドヘルプ(移動介護)の体験
- ②オセロ・トランプ・ゴールボール体験

・授業のながれ  
第2回の授業は第1回の体験を更に深める授業でした。先生の説明を聞いた後、3つのグループに分かれて体験学習が行われました。

1 「第1グループ」は、白杖による体験でした。前回体験した狭い所を歩く、段差のある、椅子に腰かけてもらうの3つの練習です。

2 「第2グループ」は、遊びの体験でした。オセログループ。トランプの「ばば抜き」を2人組になって行いました。見ていると「とても大変だった」ということが分かりました。手の感触だけをたよりに白黒のコマを並べ返したり、トランプの数字を理解することは感触と理解が一体化しなければできないからです。

3 「第3グループ」は、ゴールボール体験でした。ボールを転がすと鈴の音がします。それをたよりに受け止めたり投げたりするのです。皆、思うようには出来ませんでした。

★感想 ①視覚障害者が大変な努力をして生活しているのだということ。②耳を澄まし、手の感触をい



【ゴールボール体験】



【白杖体験】



【白杖体験】



【オセロ体験】

### 第3回 12月15日(金) 家庭科室

・講師 永原美弥子・長嶋三千子先生  
・ねらい

- ①耳の聴こえない人と話すコツを覚える。
- ②シニアサイン(ジエスチャー)を体験する。

・授業のながれ  
1 聴こえない人とのコミュニケーションするには  
①手話②筆談/アプリ③口話(口を大きく開いて伝える。例・雨が降ってきたら、洗濯物を入れて)④ジエスチャーで伝えよう

(手を洗う、お茶を飲む、おにぎりを食べる、寒いので窓を閉めて、外は風が強いのでチャックを閉めて等をおこなう)

2 東日本大震災の話  
避難時や避難所では情報をシニアサインで伝えることが大切。

3 手話ゲーム(爆弾ゲーム)  
①手話の単語を覚える(例・椎名小学校、魚、太陽、うれしい、ハダシ、今日等々)②単語を使ってゲームを楽しむ。絵を見て手話ではなす。カードに点数が書いてあり児童の興味がわくように行なった。一回ごとに歓声が上がリ、手話体験ができるようになっていった。

4 手話コーラス  
「サザエさん」の歌を手話で行う。今までの単語の理解をいかし、手話のまとめを行った。初めはゆっくり徐々に早く、何回も行うことよって手話を身につけさせていきました。

★感想 ①理屈ではなく体験を通して手話を身に付けさせる工夫。②ゲーム形式をとり、自然と授業に引き込まれる指導。③楽しく興味深く・活動的な授業であった。ただただ感心するばかりだった。



【シニアサイン】



【サザエさんの歌】

七廻塚（姫塚）を七回廻ると

機織りの響きが聞こえるという

岡本 博幸

プロローグ

七廻り塚（姫塚）は昭和三十三年生浜中学校の校庭拡張のため緊急発掘となった。校庭の東側には小円墳が数基あったが、未調査のまま削平されてしまった。七廻り塚の遺物は千葉市埋蔵文化財展示室に展示されています。

古墳は現在、生浜東小学校の運動場の一部となっており、その面影は何も残っていません。

七廻り塚古墳には昔から「七廻り塚を七回廻ると軽やかな機織りの音が聞こえてくる」と言う伝説が残されている。伝説にはロマンと夢を想像させてくれます。

麻は古墳時代（5世紀）から衣生活の布として使われてきた。我国では神に捧げる衣は、大麻や苧麻（ちようま）の繊維で織られたものでした。麻は強靱で耐久性に優れており晒せば晒すほど白くなり清らかな布として貴ばれていました。

現代においても神事の儀礼の幣（ぬさ）のお祓いは麻です。お祝いの引き出物にも麻は欠かすことができない物となっています。お盆の迎え火や送り火に苦殻を焚くのも麻を取った後の殻であります。このように麻は神事において清らかなものとして生活に根付いてきています。

奈良時代『万葉集』には麻の栽培や繊維の取り方、糸の織り方が『万葉集』に詠まれています。  
・麻衣着ればなつかし紀の國の妹背（いもせ）の山に  
麻蒔く吾妹（藤原房前）  
・庭に立つ麻手刈り干し布曝（ぬのさら）す  
東女（あずまおんな）を忘れたまふな（巻14）  
・多摩川に曝（さら）す手作りさらさら  
何そこの児のここの愛（かな）しき（巻14）

万葉の歌からは麻を栽培し機で織ったこと、衣類として纏っていたこと、生活の様子、麻に対する思いなど様々なことが想像されます。麻は生活になくてはならないものであったことが偲ばれます。

ものがたり

奈良平安京は中国長安の都のように碁盤の目のように整われ、平城宮を中心として寺院・大臣の館・役所が建ち並び賑や

かな町となって栄えていました。

生活も安定し政治の仕組みも徐々に整えられ律令制が確立していったのもこの頃でありました。

律令制とともに、ここ上総にも国府が置かれ、朝廷から地方官が赴任されてきました。彼らはその土地のまつりごとを行い農民から税をとり都に収めるのがおもな役割でありました。また都の警備や九州守護のために防人として送り出す役目も行っていました。

防人としておもむくのは大変辛い出来事でした。家族との別れ、恋人との別れには辛いものがありました。その気持ちの方が万葉集の防人の歌に詠まれています。

・防人に発（た）む騒ぎに家の妹（いも）がなるべき事を言わず来（こ）ぬかも（巻14）

・水鳥の発（た）ちの急ぎに父母に物言ず来て今ぞ悲しき（巻14）

・家（いは）るには葦火焚（あしふた）けども住み好（よ）けを筑紫に到りて恋しけもはも（巻14）

農民の生活と言えれば粗末な掘立小屋に住み、ぼろぼろ布をまとい、粗末な食べもので生活していました。昼間は田畑に出て農作業をして糧を得、夜は麻を紡いで夜なべをしていました。律令制度が整ってくると農民にも税が課せられてきました。

『租・調・庸』の税でありました。  
『租』は稲を税として治める。『調』は布を治める。『庸』は労役につく。これらの税は農民にとつては大変苦しいものであり

ました。税を納められないと苦役が課せられ、そのため農民は日々苦しい生活からのがれることができませんでした。  
ここ麻績（おみ）の台地に国司を中心にくつかの集落が点在していました。集落では麻を栽培していました。彼らは春3月初めに種をまき、夏の土用、暑い頃刈り取りや、抜き取りを行い、根と葉を取り除いた後、池に浸した。その後、茎を蒸して皮を剥ぎ、池に浸して柔らかくしていました。

麻績の谷津には清らかな泉谷津の水が滾々と流れ出ていました。水はいったん池にたまり流れ出ていきました。池は台地に囲まれた低地にあり、そこは広く大きいので「百土池（おおいけ）」と呼ばれていました。

麻を水に晒すには水が常に水が流れていることが大切でありました。溜まった水では麻が腐ったり、黒ずんだりしてしまうからです。

麻の樹皮が柔らかくなると、池から出して、皮を剥いで水で晒しました。麻は何回もさらすと白くなり美しい麻糸となりま

した。これを天日で乾かすと上等の麻糸となり、これを細く裂いて糸を繋いで長い糸に糸巻きで巻かれ束ねられていきました。

糸を経（たて）糸と緯（よこ）糸を絡ませて織りあげた。布は何回も晒し、晒せば晒すほど白くなり柔らかくなっていきました。この麻布で織ったものが細布と呼ばれる麻布でした。麻布は国司によって集められ、税として都に送られ、都で麻布は貴族や下級官人の衣服として使われていたのです。

正倉院には『上総国勅使交易布壹段』墨書されたものが残っています。このことは、上総の麻布が上等なものであったことが推測されます。きっと「麻績」で織られた布もあつたことだろうと思います。

此処麻績の台地は、温暖な気候で過ごしやすかったです。稲作も盛んにおこなわれていました。台地の前は穏やかな内海が広がり、干潮になれば小魚や貝が取れ豊かな海でありました。藻を焼いて塩も作ったり、漕を利用して都や外国との交易も盛んにおこなわれていた所でした。

この頃、朝鮮半島では戦乱が続き、なかでも新羅と唐の連合軍が百済を攻めてきた戦いは歴史に残るものでした。日本は百済の要請によって百済救済に当たったが戦わずして惨敗を喫してしまつたのです。これが白村江（はくすきのえ）の戦いでありました。

人々は我先と白馬江に身を投げ死んでいった人もたくさんいました。都は全て焼き払われ廢墟となつてしまひ、これによつて百済は歴史の中から消滅してしまつたのでした。なかには、難を逃れ船で錦江湾に出て日本国に脱出を図つた人もおり、それが朝鮮からの渡来人でした。

渡来人たちは日本の各地に上陸し、そのなかには東京湾にたどり着き、そのまた一部の人は麻績のあたりに住み着いたと考えられます。彼らは「土器作り・機織り・石器加工・鉄器の製作」に優れた技術を持っていました。

その一つに麻栽培と麻布織りの技術がありました。渡来人はここ麻績において麻づくりを始めました。そのことによつてこの地は麻作りが盛んになり、ここ一帯を「麻績（おみ）」の地と呼ばれるようになったのです。

「七回廻塚（姫塚）」とは韓一族の墳墓であり「七廻り塚古墳」とは後の世の若者たちが、織物を伝授してくれた韓姫たちへの感謝の気持ちと良き思い出をもう一度聞きたいという願いからでありました。